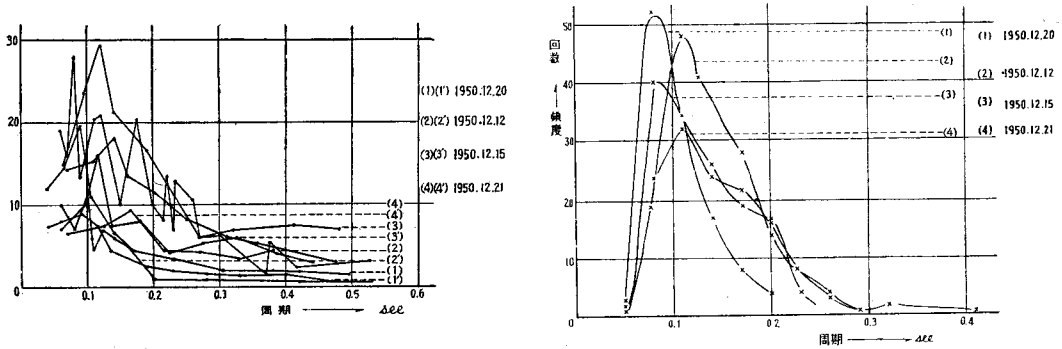


第 二 図



筆者等は九州電力耳川塚原ダム、関西電力丸山ダムの地震観測記録を用い、以上のような解析を行った。その結果を図一（塚原）、図二（丸山）に示す。上段は Response curve であり、下段は地震の周期頻度曲線である。

この結果から明らかに出来た事は、

- (1) 頻度最大の周期は、最大の Response を生ずる周期と一致する。
- (2) 短周期の方が長周期と比較して減衰の効果が大きい。
- (3) 最大頻度周期乃至は最大 Response 周期は 0.2 秒乃至はそれ以下であり、沖積層の地震動と比較して非常に短周期のものが多い。

(6-22) ダムの連続設置にともなう門扉操作 1 要素

正員 東北電力株式会社 ○吉 田 栄 延
正員 同 高 畑 克 己

東北地方における只見川や、中部地方の木曽川のように極度に開発が進み、貯水池調整池が階段状に連続して設けられた場合、これ等一群の貯水池群の水位あるいは流量をどのように調整したら最も水を有効に利用できるか、また上流より洪水が流下した場合各堰堤のゲートの操作をどのようにしたら発電上最も有効にかつ安全に洪水を流下せしめるかということは、このような連続施設の運転操作上、非常に大きな関心をひいている。

当社においても、只見川開発の進展にともないこの問題が重要度を増加して来たので理論研究と併行して昨年 11 月初旬、只見川柳津調整池において放流実験を数日にわたり行ってみた。

この結果を申述べて御参考にご供したいと思う。

註 詳細についてはべつに印刷物を会場において配布する予定。

(6-23) 北海道夕張郡大夕張ダム計画地点 附近の地質について

准員 北海道開発局土木試験所 佐々木 敏 雄
准員 同 ○城 戸 欽 也
准員 同 忽 滑 谷 宗
同 佐々木 悌 郎

近時各処にダム建設が相踵ぎ、之が基盤地質の解明並びにその対策につき、より正確な資料と真剣な努力が要求されてきつゝある。北海道開発局内においても、各種のダム計画があり、それにつれて、調査法も漸次改善されつゝある。昭和 27 年より当地点の調査を担当して以来、一応工事に先行する基礎調査を完了し、現在各種の

